

北海道横断自動車道（黒松内～余市） 計画段階評価の試行

平成23年5月17日

国土交通省 北海道開発局

1. 前回までの審議内容
2. 本日も議論頂きたい内容
3. 政策目標(案)
4. 路線全体の整備方針(案)
5. 地域意見聴取の方針(案)
6. 今後のスケジュール

1. 前回までの審議内容

1) 前回までの審議内容

北海道横断自動車道(黒松内～余市) 計画段階評価試行

【第1回審議内容】 (H22.12.14)

- 「計画段階評価」試行箇所概要
- 広域的な移動についての現状と課題
- 後志地域の現状と課題
- 計画路線に並行する一般国道5号の課題

【第2回審議内容】 (H23. 1.20)

第1回を踏まえ

- 広域及び地域の課題
- 課題を踏まえた「政策目標」の考え方
- 政策目標達成のための留意点
- 対策案立案に対する基本的な考え方

2) 前回委員会での主な意見と対応

	主な意見	対応	資料
○政策目標の考え方について			
1	地域における必要性に加え、日本全体で見た場合でも、国家軸として重要な区間であり、優先度が高いという整理が必要	資料2において、物流拠点等を結ぶ広域交通ネットワークという観点から、道央圏の環状機能に関する資料をとりまとめました。 また、災害時におけるリダンダンシーの事例を参考資料として整理しました。	資料2 P 5 参考資料 P8～11
2	黒松内～余市は重要な都市、港湾などを結んでいる広域環状道路であり、火山噴火時のリダンダンシーの確保という視点でも重要な区間。ミッシングリンクとなっている当該区間を広域環状道路で結ぶ必要があるなど、誰にでもわかりやすい説明が必要		
3	物流におけるデータは、港湾等、他部門とも連携して整理を行うこと	頂いたご意見を踏まえ、引き続き港湾等の他部門との連携を図ったデータ整理を行います。	—
4	農水産物の出荷側だけではなく、種苗や稚貝に関係する事業者等への効果も整理することが必要	参考資料において、ホタテの種苗に関係する事業者等への効果事例として、事業者に対して行ったヒアリング結果を整理し、ホタテの種苗に関係する資料をとりまとめました。	参考資料 P 4
5	速達性だけではなく、荷痛みの減少効果などの整理も必要	参考資料において、輸送時の荷痛みの事例として、事業者ヒアリング等の結果などメロンの輸送に関する資料をとりまとめました。	参考資料 P 5
○政策目標達成のための留意点について			
6	政策目標の達成の留意点や対策案の立案については、道路の構造等技術的な観点のみではなく、後志地域の活性化や生活の利便性向上など多様な観点で検討することが必要	多様な観点からの検討を行うべく、政策目標や整備方針などについて地域意見聴取を行い、聴取結果を踏まえた検討を行います。	—
7	観光や物流などにおいて、地元が道路を活用しやすくするためには、インターチェンジ位置の検討が重要	頂いたご意見を踏まえ、利用者にとって利便性の高い道路にすべく、地域意見聴取の結果を踏まえた検討を行います。	—
8	観光等の人の流れについて、モデル的な観光ルートを作成するなど、当路線の効果等をシミュレーションすることも必要	参考資料において、モデル的な観光ルートの事例として、観光事業者へのヒアリング結果等、新たな観光ルートに関する資料をとりまとめました。	参考資料 P 7
9	物流の効果など、小さい効果でも丹念に積み重ね、本州にもメリットがあることの説明が必要	参考資料において、本州にもメリットがある事例として、統計資料から東京・大阪の市場における北海道産トマトやメロンのシェアに関する資料をとりまとめました。(再掲載) 頂いたご意見を踏まえ、必要に応じて消費者側の視点に立った調査を行います。	参考資料 P 6
10	整備効果について、北海道から農水産物を供給する側の視点だけではなく、東京など消費者側の要請から整理することも必要		
11	北海道総合開発計画(国際観光、一次産業の高付加価値化など)との整合性や計画の推進という視点も考慮する必要	資料1において、国、北海道、市及び町の総合計画等との整合性を整理し、各計画を推進する視点からも必要な計画であることを掲載しました。	資料1 P 9
○対策案立案に対する基本的な考え方について			
12	現道拡幅と別線で整備する場合の比較をしっかりと行うこと	対策案立案にあたっては、頂いたご意見等を踏まえ、引き続き検討を行います。	—
13	対策案の立案に関しては、景観、観光を考慮した道路構造(例えばビュースポットのピクニックスペース的なもの)を試行する時期に来ており、北海道らしい新たな道路構造について検討することが望まれる		
14	北海道地域の自然条件や環境特性を活かした道路の整備を検討することが必要		
15	費用対効果だけではなく、北海道の地域特性を踏まえた考え方を評価のステージにのせるなど、評価自体に対する新しい提案も必要		

2.本日まで議論頂きたい内容

1)本日の審議内容

北海道横断自動車道(黒松内～余市) 計画段階評価試行

本日、ご議論いただきたい内容

- 政策目標(案)
- 路線全体の整備方針(案)
- 地域意見聴取の方針(案)

3.政策目標（案）

1) 政策目標(案)の設定

地域の課題(案)		原因	政策目標(案)	資料2
暮らし (地域医療)	○ 札幌方面の高次医療施設への速達性が課題	○ 経路上に事故が多発する市街地や峠部などの線形不良区間が存在することにより走行性が低下	○ 後志地域から高次医療施設がある札幌市、小樽市への搬送時間の短縮 ○ 市街地、線形不良区間における走行性向上	P 6 ~7
観光	○ 高速道路のない後志地域は観光客が立ち寄りづらい地域となっている	○ 新千歳空港から主要観光地ニセコエリアへの速達性が低い ※ ニセコエリアに代表される地域観光資源に対するアクセス性への配慮が必要	○ 新千歳空港から主要観光地であるニセコエリアへの速達性の向上	P 8 ~9
物流	○ 道南から小樽港への国際コンテナの輸送において、最短経路が利用できない ○ 主な物流経路では大型車関連事故が多発	○ 国道5号に国際コンテナ通行支障区間が存在 ○ 峠部、市街地を中心に大型車の事故が発生	○ 国際コンテナの通行支障区間の解消 ○ 峠部・市街地部などの通行支障区間の解消による速達性・安全性の向上	P10 ~13
防災	○ 大規模災害時に物流機能が麻痺	○ 活火山等の災害影響範囲をさけた物流代替機能が脆弱	○ 北海道縦貫自動車道が持つ広域交通機能を、火山等大規模災害時に代替するルートを確保	P14 ~15
拠点間交流	○ 道央圏内の地域間の連携機能が脆弱	○ 道央圏の地域間を繋ぐネットワークが不足	○ 道央圏内の拠点都市間を繋ぐ環状機能の確保	P 5

2) 政策目標(案)の設定

政策目標の柱は、観光・物流・医療・防災は、国・北海道及び通過予定の各町の長期計画とも整合

■ 新たな北海道総合開発計画（平成20年7月～）

主要施策	内容（抜粋）
魅力と活力ある北国の地域づくり・まちづくり	▲都市における機能の強化と魅力の向上
国際競争力の高い魅力ある観光地づくりに向けた観光の振興	●国際競争力の高い魅力ある観光地づくり →広域周遊型観光の促進 →外国人や高齢者が容易かつ円滑に旅行できるような観光地づくり
国内外に開かれた広域交通ネットワークの構築	■高速交通ネットワークの強化 →高規格幹線道路を始めとする基幹的なネットワークの整備 ■国際競争力を高めるための物流ネットワーク機能の強化 →国際標準コンテナ車が支障なく通行できる幹線道路ネットワークの構築
頻発する自然災害に備える防災対策の推進	★根幹的な防災対策の推進 →集中豪雨や噴火等により発生する土砂災害に対し、人命等を守るための土砂災害対策を推進 ★豪雪対策および積雪寒冷地域における防災対策の推進 →積雪寒冷地の特性を考慮した防災対策を推進

■ 新・北海道総合計画（平成20年3月～）

資料：国土交通省

政策展開方針	内容（抜粋）
安心で住みよいまちづくりの推進	▲地域医療提供体制の構築 ▲人口減少・高齢化に対応する社会の形成
多彩な地域資源を活用した観光の振興	●魅力ある観光地づくり →道央各地の観光エリアを周遊する広域観光 ルートの形成
交流を支える基盤整備の促進	●『“しりべし”国際観光リゾートエリアの形成』* →外国人観光客の誘客促進と利便性の向上
交流を支える基盤整備の促進	■産業や生活を支える交通・情報ネットワークの形成 →高規格幹線道路の推進
安心で住みよいまちづくりの推進	★防災体制の整備 →有珠山などの火山噴火に備えた災害防止施設等の整備

9*：地域プロジェクト

資料：北海道

■ 各町の総合計画

▲：医療・生活 ●：観光
■：産業・物流 ★：防災・災害

市 町	内容（抜粋）
黒松内町 第3次 黒松内町総合計画 (平成22年度～平成31年度)	▲身近な医療の確保 ▲消防・救助・救急体制の充実 ●交流観光サービスの魅力向上 ■北海道横断自動車道の整備促進 ★防災体制の充実
蘭越町 第5次 蘭越町総合計画 (平成22年度～平成31年度)	▲地域医療体制の整備 ●多様できめ細かなサービスメニューの創出 ■機能的な道路ネットワーク構築 ■広域道路網の整備促進（高規格幹線道路の建設促進） ★防災体制の充実と危機管理体制の整備
ニセコ町 第4次 ニセコ町総合計画 (平成14年度～平成23年度)	▲安心・安全な生活環境づくり（安心して子供を産み育てられる） ●ニセコ観光を支えるソフトの充実 ●観光客の交通利便性の向上 ■利便性の向上や利用実態に合った道路ネットワークの整備 ★人が主役で環境に優しい便利な交通ネットワークをつくる
倶知安町 第5次 倶知安町総合計画 (平成20年度～平成31年度)	▲安心・安全な生活環境づくり ●国際観光リゾート地の創出 ■豊かさや活力ある農業・農村づくり ■北海道横断自動車道建設促進 ★災害への備えの充実
共和町 第7次 共和町総合計画 (平成21年度～平成30年度)	▲地域医療体制の充実 ▲広域医療の確保、充実 ●観光資源の保全 ■高規格幹線道路の整備促進 ★防災、危機監視体制の整備・充実
仁木町 第4期 仁木町総合計画 (平成13年度～平成22年度)	▲広域医療ネットワーク強化による高次医療体制、緊急体制の充実 ●「見る観光」から自然を生かしたアウトドア活動をはじめ 個性的な地域の特徴を「体験する観光」へ ■安全で快適な道路づくり ★仁木町地域防災計画に基づいた防災体制の強化・充実
余市町 第3次 余市町総合計画 (平成14年度～平成23年度)	▲医療機能の充実、救急医療への迅速な対応 ●広域観光における拠点づくり ●観光ルートの整備促進とゾーン開発 ■高規格幹線道路 余市・小樽間の早期建設 ★防災計画の充実、防災意識の高揚

資料：各町

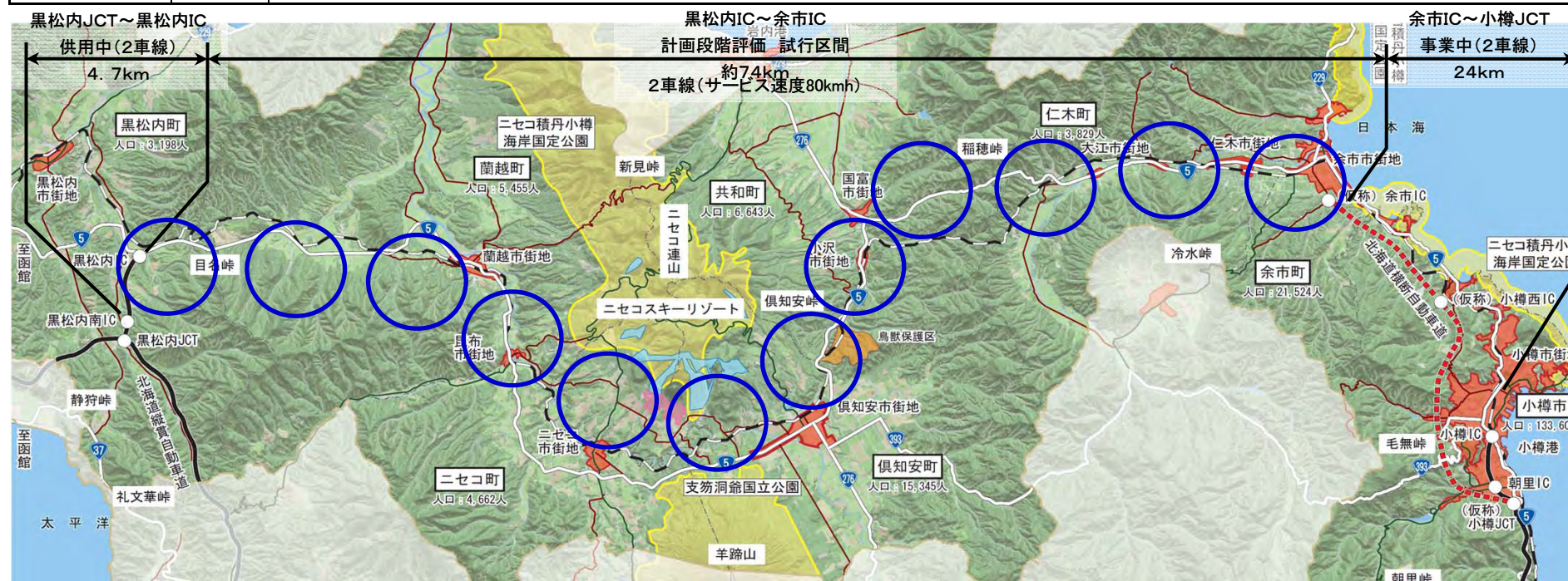


4.路線全体の整備方針（案）

1) 路線全体の整備方針(案)の検討

○接続する区間の整備状況(2車線整備)を踏まえ、当面の整備の考え方として全線2車線整備を基本としたうえで、ネットワーク機能の早期確保、政策目標の早期達成の視点に立ち、整備の進め方として以下の2案について検討

凡例	対策案	対策案の概要
○	案①	全線を別線で一括整備する案 【基本計画に対して、当面2車線(設計速度80km)にて整備する案】
	案②	隘路区間を別線で整備しその他の区間は当面現道を活用することによりネットワーク機能を早期に確保する案 【黒松内～余市間のネットワーク機能を一部現道を活用しながら早期に効率的・効果的に発揮させる案】

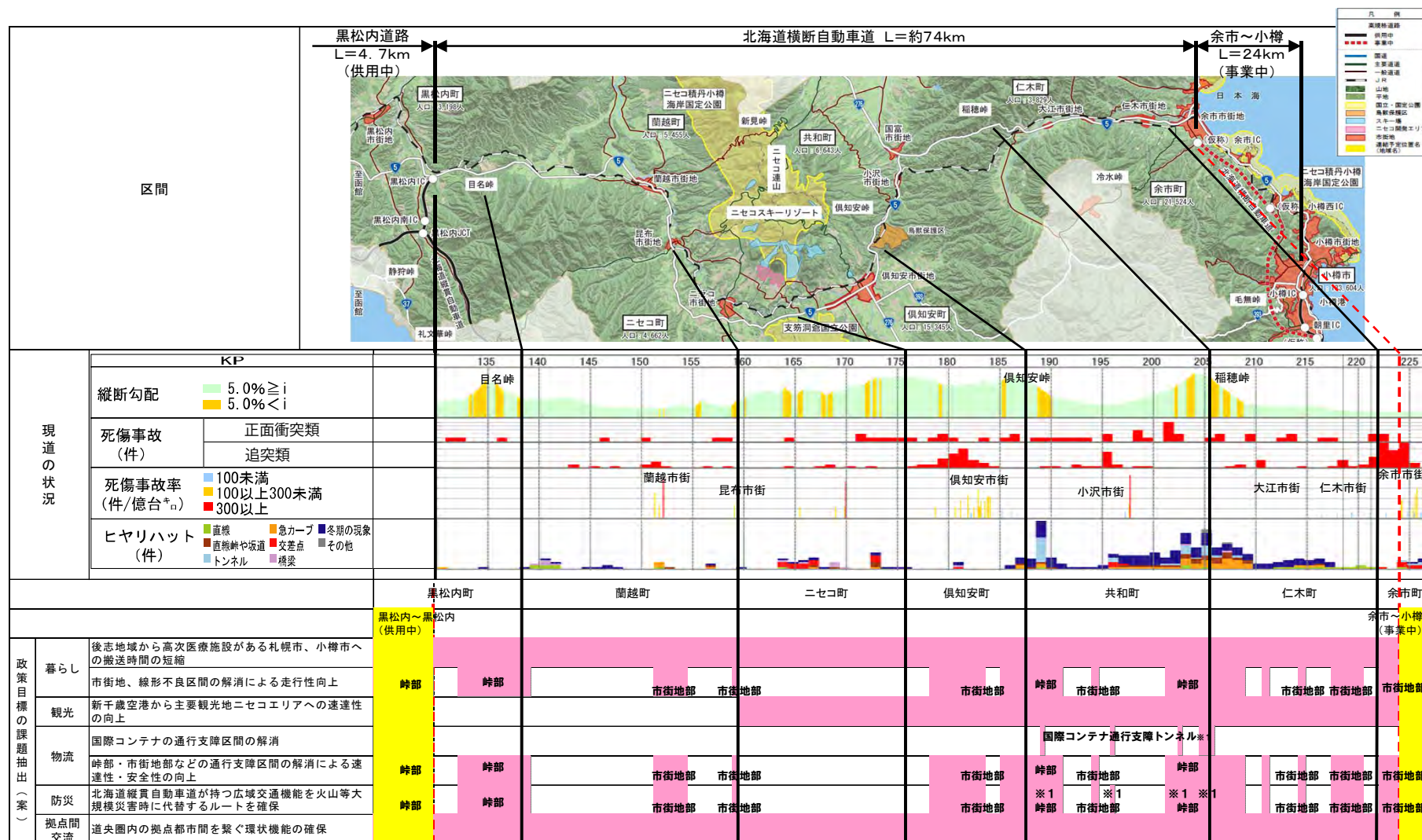


対策案	【案①】	【案②】
政策目標	完成時には政策目標を全て達成できる	段階的に達成できる
整備効果	全線完成まで効果が出ない	段階的にではあるが早期に効果が発生
利用時期	全線完成まで利用が不可能	早期に利用可能

2) 政策目標達成に向けた課題(案)

○政策目標の達成に際し障害となる課題について抽出

○今後、具体的な対応案の検討に際し、地域の意見を踏まえながら、課題の更なる抽出や分析が必要



資料：平面・縦断 H20M1CHIデータ
死傷事故率 H18-H21イタルダデータ
事故マッチングデータ (H18～H21)
ヒヤリハット 北海道開発局

3) 通過位置の基本的な考え方(案)

○別線で道路整備する際の通過位置については、基本的な考え方として、以下の点に配慮して想定

- ①構造物(コスト)を抑制するため、JRや河川の横断を考慮
- ②地域分断を避けるため、市街地を考慮
- ③国立公園・国定公園・希少種の生息地や埋蔵文化財包蔵地等の自然環境に考慮
- ④その他のコントロールポイント(CP)を考慮
 - ・水田、果樹園等の農地
 - ・インフラ施設(上下水道など)
 - ・公共施設(学校など)
 - ・環境保全(森林公園)
 - ・リゾート施設及び施設と一体となって機能する宿泊施設群

自然環境面	自然公園	国立公園、国定公園等	支笏洞爺国立公園、ニセコ積丹小樽海岸国定公園
	史跡・遺構	指定文化財	史跡・天然記念物等(町指定)
	森林	保安林	水源かん養、土砂流出防備、保健、土砂崩壊防備、干害、防風、防霧保安林
	条例等の保全対象	自然環境保全地域等	北海道自然環境等保全条例指定地区等
生活環境面	その他	鳥獣保護区	鳥獣保護区
	市街地	規制区域	騒音・振動規制区域、悪臭規制区域
		その他	学校、病院、福祉施設等



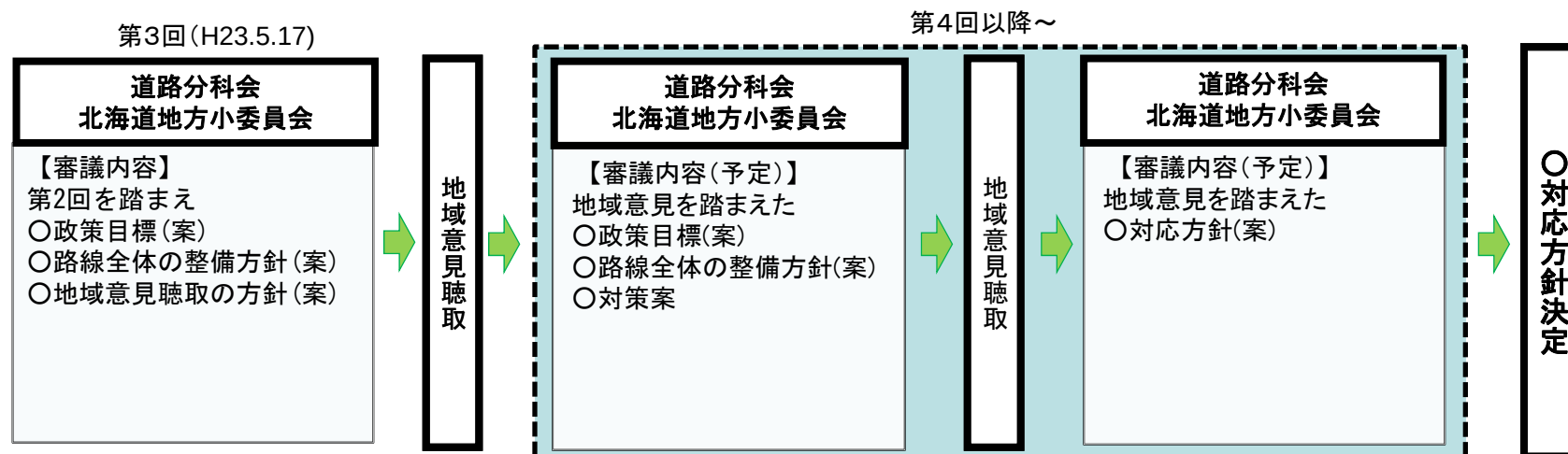
参考) 並行する国道5号の現況写真



5. 地域意見聴取の方針（案）

1) 地域に対する意見聴取方針(案)

○第3回委員会でご議論いただく政策目標(案) や路線全体の整備方針(案)等について、沿道の地方公共団体等から意見聴取を行い、地域意見を踏まえた対応方針(案)を検討



第1回意見聴取(案)

1) 意見聴取の内容

- ・課題及び政策目標(案)、路線全体の整備方針(案)に対する意見を聴取

2) 意見聴取の対象

- ・沿線の地方公共団体、関係団体 等

3) 方法

- ・直接面接によるヒアリング

4) 実施主体

- ・国土交通省北海道開発局

第2回意見聴取(※)

1) 意見聴取の内容

- ・政策目標(案)、路線全体の整備方針(案)、対策案に対する意見を幅広く聴取

2) 意見聴取の対象

- ・沿線の地方公共団体、沿線住民、関係団体、道路利用者 等

3) 方法

- ・直接面接によるヒアリング、ワークショップまたはアンケート等を想定

4) 実施主体

- ・国土交通省北海道開発局

※ 今後の検討状況等を踏まえ、変更することも想定

6. 今後のスケジュール

○計画段階評価の審議の進め方 <北海道横断自動車道(黒松内～余市)>

